

CAPCOM

第26期 中間事業報告書

平成16年4月1日から平成16年9月30日まで

(証券コード 9697)



テレビアニメ「ビューティフル ジョー」
毎週土曜日 朝9:30～10:00
テレビ東京系全国ネット他にて放映中
© 2004 CAPCOM/VJ製作委員会・テレビ東京

社名	株式会社 カプコン (CAPCOM CO., LTD.)
設立	昭和54年5月30日
主要な事業内容	家庭用テレビゲームソフトの企画、開発、 販売ならびにアミューズメント施設の運営
資本金	275億81百万円
従業員数	989名
主要な事業所	本社 大阪市中央区内平野町三丁目1番3号 研究開発ビル 大阪市中央区内平野町三丁目2番8号 東京支店 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
主要な子会社	株式会社カプトロン(大阪市) カプコンU.S.A., INC.(米国) CE・ヨーロッパ LTD.(英国) カプコンアジアCO., LTD.(香港)
ホームページ	http://www.capcom.co.jp/



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに当社第26期上半期(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)の営業の概況と中間決算についてご報告申し上げます。

当中間期のわが国経済は、原油高による減速懸念はありましたものの、堅調な設備投資、輸出や個人消費に加え、アテネ五輪や猛暑効果などもあって、景気は回復基調を持続いたしました。

当業界におきましては、国内の家庭用ゲーム市場はハードの普及が一巡したことにより、一服感がありましたものの、次世代機の登場を見据えた需要創出の動きや国内最大級の「東京ゲームショウ2004」の入場者数が昨年を上回るなど、新たな成長ステージに向けたうねりが出てまいりました。

一方、海外はハードの値下げ効果や映画、スポーツを題材にしたゲームが健闘したこともあって、欧米市場がおおむね堅調に展開いたしました。

また、業務用市場は、趣向を凝らしたゲーム機の設置

目次

会社の概要／株主の皆様へ	1
営業の概況	3
財務ハイライト	5
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書／中間連結剰余金計算書	7
中間連結キャッシュ・フロー計算書	
セグメント情報	8
中間貸借対照表(単独)	9
中間損益計算書(単独)	10
株式の状況／役員の状況	

など家庭用ゲームとの差別化戦略やネットワークゲームの導入に加え、アミューズメント施設の大型出店展開が奏効したこともあって、女性、ファミリー層が定着するなど、順調に推移いたしました。

こうした状況のもと、当社グループはユーザー志向に立った商品の投入や各種イベントの開催に加え、多様な顧客ニーズに対応するため他社との提携戦略や携帯電話向けのゲーム配信事業を国内外で活発化させるとともに、構造改革の推進により経営体質の改善、業績の向上に取り組んでまいりました。

なお、当社グループの看板ソフトである「バイオハザード」を題材にしたハリウッド映画「バイオハザードⅡ アポカリプス」が今秋日米で上映され、大ヒットしたことにより、知名度の向上やブランド価値の増大など副次的効果をもたらしました。

さらに、社団法人コンピュータエンターテインメント協会主催の「第8回CESA GAME AWARDS(セサ ゲーム アワード)」において「モンスターハンター」(プレイステーション2用)が最優秀賞を受賞するとともに、著名な業界誌であるファミ通が選ぶ「ファミ通AWARDS 2004 上半期」でも、同ソフトがグランプリに輝いたほか、数多くの部門で上位に入りました。

また、今年9月開催の取締役会におきましてユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の発行を決議いたしました。

この結果、連結売上高は285億37百万円(前年同期比27.1%増)となりました。

しかしながら、利益面につきましては、売上原価率の上昇などにより連結経常利益は14億86百万円(前年同期比5.4%減)となり、連結中間純利益は5億43百万円(前年同期比40.9%減)となりました。

中間配当につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

今後の見通しといたしましては、当業界は今冬に携帯型ゲーム機のニンテンドーDSやプレイステーション・ポータブル(PSP)が登場することにより年末商戦が活発化する

とともに、下期に予定されている大作ラッシュや豊富な商品ラインナップにより、市場は久々に活気づくものと思われます。

また、ブロードバンド(高速大容量)などの通信インフラの整備に伴い、事業領域の拡大を求めて、オンラインゲームの普及も拍車がかかり、市場規模を押し上げることも予想されます。

一方、携帯電話やインターネットなど、顧客層が重なる消費の分散化や企業間競争の激化による優勝劣敗により「勝ち組」と「負け組」の二極化が鮮明になり、転換期を迎えるものと思われます。

なお、今年の5月に「コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律」(通称、コンテンツ振興法)が成立いたしました。これによりゲーム産業発展の後押しとなることが期待されます。

このような情勢のもと、当社グループは開発スタッフの充実強化や多様な顧客ニーズに対応して新ジャンル、提携ソフトの拡大によりユーザー層の拡大を図ってまいります。

また、オンラインゲームやコンテンツ(情報の内容)配信事業を国内外で注力してまいります。

他方、当社ゲームソフトを題材にハリウッド映画「鬼武者」や「デビル メイ クライ」の公開が予定されていることに加え、「ロックマン エグゼ」や「ビューティフル ジョー」のテレビアニメ放映等、メディアミックス戦略によりプロモーションとの相乗効果を狙うなど、多面的な事業展開を図ってまいります。

また、業務の効率化やコスト削減などの経営全般にわたる合理化を推進し、利益体質の構築を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月

代表取締役社長

辻本憲三


【コンシューマ用機器部門】

「グランド・セフト・オート・バイスシティ」(プレイステーション2用)が輸入タイトルとしては、前期の「グランド・セフト・オートⅢ」(プレイステーション2用)に続いてヒットを放ちましたが、「バイオハザード アウトブレイク FILE2」(プレイステーション2用)は伸び悩みました。

一方、ゲームボーイアドバンス向けの「ロックマン ゼロ3」や「ロックマン エグゼ4.5」などのロックマンシリーズが安定した人気に支えられ、順調な売行きを示しました。

海外につきましては、堅調な米国市場に支えられ「メガマン アニバーサリーコレクション」(プレイステーション2・ニンテンドーゲームキューブ用)や「ロックマン エグゼ4」(ゲームボーイアドバンス用)が好調に販売を伸ばしました。また、「鬼武者3」(プレイステーション2用)は弱含みに展開しましたものの、「バイオハザード アウトブレイク」(プレイステーション2用)が底堅い売行きを示すとともに、廉価版ソフトも健闘いたしました。

この結果、売上高は173億87百万円(前年同期比29.7%増)となりました。

© 2002-2004 Rockstar Games, Inc. Rockstar Games, Rockstar North and the  logo, Grand Theft Auto: Vice City and the Grand Theft Auto: Vice City logo are trademarks and/or registered trademarks of Take-Two Interactive Software, Inc. Rockstar Games and Rockstar North are subsidiaries of Take-Two Interactive Software, Inc. All other marks and trademarks are properties of their respective owners. All rights reserved.

© CAPCOM CO., LTD. 2004 ALL RIGHTS RESERVED.

© CAPCOM CO., LTD. 2004 ALL RIGHTS RESERVED.

© CAPCOM CO., LTD. 2005 ALL RIGHTS RESERVED.

© CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED./
ILLUSTRATIONS : Kazuma Kaneko/ATLUS



「グランド・セフト・オート・バイスシティ」
(プレイステーション2用ソフト)
前作に続き好評を博しました。



「ロックマン ゼロ3」
(ゲームボーイアドバンス用ソフト)
シリーズ作品として安定した人気を得ています。



「バイオハザード アウトブレイク FILE2」
(プレイステーション2用ソフト)
バイオハザードを題材とした映画も公開中です。

【アミューズメント施設部門】

「地域一番店」を基本戦略として、清潔で明るく、快適な店舗運営をコンセプトに、多彩なイベント、サービスデーの実施や店舗のリニューアルなど、地域密着型の集客展開により顧客の囲い込みや需要の掘り起こしに努めてまいりました。

新規出店といたしましては、静岡県下最大級の商業複合施設に「プラサカブコン志都呂店」をオープンするとともに、不採算店1店舗を閉鎖するなど、戦略的な施設展開により収益の向上に努めてまいりました。これにより、当施設は32店舗となっております。

この結果、売上高は55億82百万円(前年同期比19.3%増)となりました。

【業務用機器部門】

市場環境が回復基調の中、ビデオゲーム機「機動戦士Zガンダム エウゴ VS. ティターンズDX」が安定した人気に支えられ好調に販売を伸ばし、売上拡大のリード役を果たすとともに、メダルゲームの「スーパーマリオ 不思議のジャンジャンランド」や「ちびまる子ちゃん みんなですごろく遊びの巻」も健闘いたしました。

この結果、売上高は29億90百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

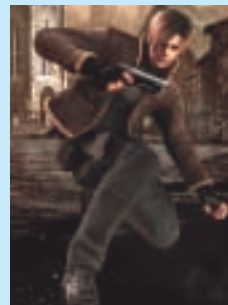
【その他の部門】

その他の売上高は、25億94百万円(前年同期比56.7%増)で、主なものはライセンス許諾によるロイヤリティ収入等であります。



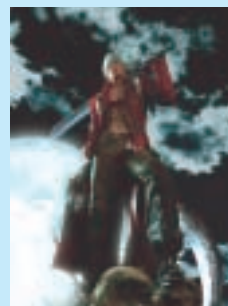
「プラサカブコン志都呂店」

新作情報



「バイオハザード4」

(ゲームキューブ用およびプレイステーション2用ソフト)
ゲームキューブ用は平成17年1月、プレイステーション2用は平成17年末にそれぞれ発売予定です。



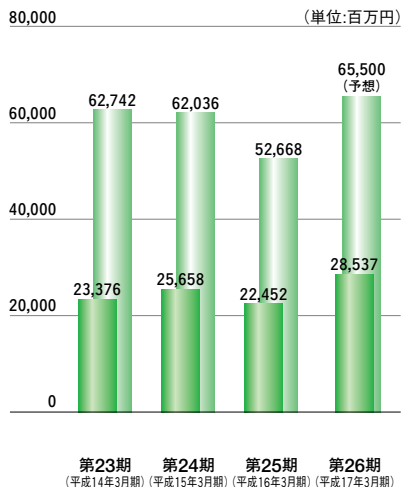
「デビル メイ クライ3」

(プレイステーション2用ソフト)

今冬発売予定で人気シリーズの期待作品です。

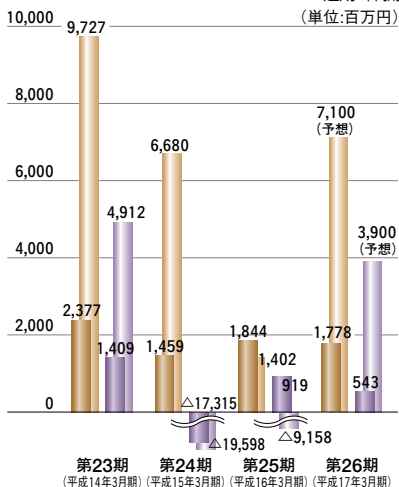
財務ハイライト

連結売上高

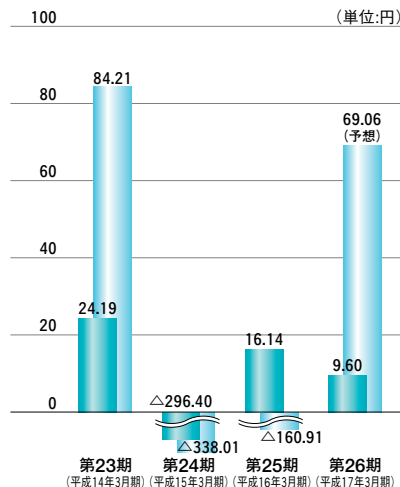


連結営業利益

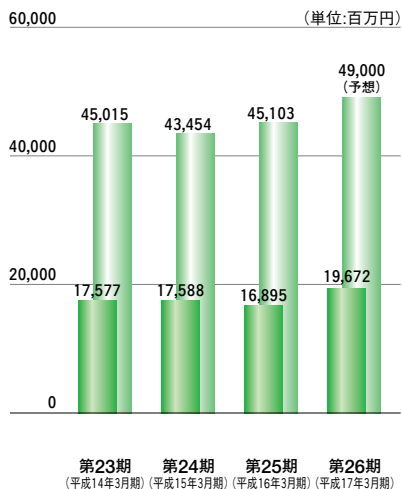
連結中間(当期)純利益(△純損失)



連結1株当たり中間(当期)純利益(△純損失)

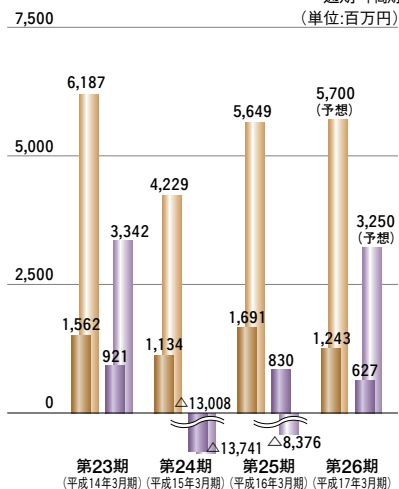


単独売上高

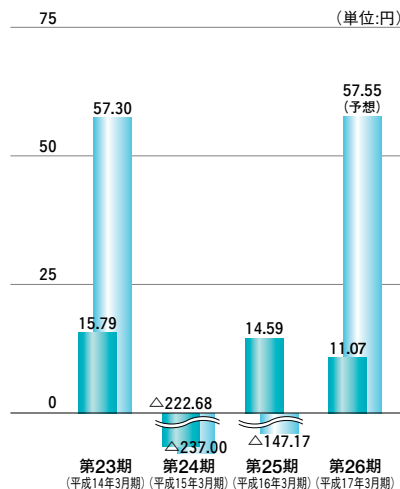


単独営業利益

単独中間(当期)純利益(△純損失)



単独1株当たり中間(当期)純利益(△純損失)



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前中間期 (平成15年9月30日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
【資産の部】				
流動資産	【	61,943】	70,699】	62,957】
現金および預金		29,832	27,590	29,809
受取手形および売掛金		11,243	10,476	8,922
有価証券		999	557	2,321
たな卸資産		3,792	7,008	4,338
ゲームソフト仕掛品		10,047	13,288	9,640
繰延税金資産		4,298	3,553	4,989
短期貸付金		1,567	4,324	1,555
その他		1,929	4,403	2,544
貸倒引当金	△	1,769	504	1,164
固定資産	【	30,128】	35,183】	30,138】
(有形固定資産)	(14,628)	14,999)	14,577)
建物および構築物		6,941	7,277	6,959
機械装置および運搬具		68	132	112
工具器具備品		587	715	642
レンタル機器		121	158	135
アミューズメント施設機器		2,430	2,234	2,245
土地		4,475	4,475	4,471
建設仮勘定		4	5	11
(無形固定資産)	(770)	1,052)	934)
(投資その他の資産)	(14,729)	19,131)	14,627)
投資有価証券		1,918	2,409	2,195
長期貸付金		3,603	928	3,638
繰延税金資産		7,909	10,613	7,960
破産債権更生債権等		114	116	108
その他		4,911	5,532	4,821
貸倒引当金	△	3,726	470	4,097
資産合計		92,071	105,882	93,096

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前中間期 (平成15年9月30日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
【負債の部】				
流動負債	【	29,048】	18,895】	17,129】
支払手形および買掛金		5,038	5,525	4,497
短期借入金		5,594	7,024	6,295
1年以内償還予定の転換社債		12,262	—	—
未払法人税等		117	203	152
賞与引当金		442	339	1,114
返品調整引当金		274	375	699
その他		5,319	5,426	4,369
固定負債	【	31,339】	44,585】	44,111】
転換社債		25,000	37,262	37,262
長期借入金		5,180	5,880	5,530
繰延税金負債		—	89	—
退職給付引当金		692	822	847
その他		466	532	472
負債合計		60,387	63,481	61,241
【資本の部】				
資本金	【	27,581】	27,581】	27,581】
資本剰余金	【	15,337】	24,852】	24,852】
利益剰余金	【△	7,196】	△ 6,080】	△ 16,727】
その他有価証券評価差額金	【	389】	130】	589】
為替換算調整勘定	【△	791】	△ 985】	△ 1,340】
自己株式	【△	3,635】	△ 3,097】	△ 3,099】
資本合計		31,684	42,401	31,854
負債、少数株主持分 および資本合計		92,071	105,882	93,096

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
売上高		28,537	22,452	52,668
売上原価		19,758	14,522	37,276
売上総利益		8,779	7,929	15,392
返品調整引当金繰入額		—	—	86
返品調整引当金戻入額		425	237	—
差引売上総利益		9,204	8,167	15,305
販売費および一般管理費		7,426	6,323	13,902
営業利益		1,778	1,844	1,402
営業外収益		(561)	(148)	(330)
受取利息		95	105	207
受取配当金		13	2	2
為替差益		366	—	—
その他		86	40	120
営業外費用		(853)	(422)	(942)
支払利息		138	131	276
為替差損		—	240	381
貸倒引当金繰入額		615	—	97
その他		100	49	187
経常利益		1,486	1,570	791
特別利益		(134)	(24)	(38)
固定資産売却益		—	13	38
投資有価証券売却益		67	—	—
事業譲渡益		66	—	—
貸倒引当金戻入益		—	10	—
特別損失		(143)	(45)	(7,730)
固定資産除売却損		80	45	177
投資有価証券評価損		62	—	192
投資有価証券売却損		—	—	158
棚卸資産処分損		—	—	3,057
貸倒引当金繰入額		—	—	4,144
税金等調整前中間純利益 または当期純損失(△)		1,476	1,548	△ 6,900
法人税、住民税および事業税		193	26	601
過年度法人税等還付額等	△	49	—	71
法人税等調整額		788	617	1,742
少数株主損失		—	15	15
中間純利益または当期純損失(△)		543	919	△ 9,158

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
【資本剰余金の部】				
資本剰余金期首残高		24,852	30,471	30,471
資本剰余金減少高		9,515	5,619	5,619
配当金		569	569	569
自己株式処分差損		0	0	0
資本金および資本準備金減少差取崩額		8,945	5,049	5,049
資本剰余金中間期末(期末)残高		15,337	24,852	24,852
【利益剰余金の部】				
利益剰余金期首残高		△16,727	△12,049	△12,049
利益剰余金増加高		9,531	5,968	5,049
中間純利益		543	919	—
資本金および資本準備金減少差取崩額		8,945	5,049	5,049
持分法適用会社増加に伴う 利益剰余金増加高		42	—	—
利益剰余金減少高		—	—	9,728
配当金		—	—	569
当期純損失		—	—	9,158
利益剰余金中間期末(期末)残高		△ 7,196	△ 6,080	△16,727

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,194	△ 565	5,577
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 972	△ 4,947	△ 5,011
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,155	1,258	△ 395
現金および現金同等物に係る換算差額		636	△ 1,042	△ 1,484
現金および現金同等物の減少額		△ 1,298	△ 5,296	△ 1,313
現金および現金同等物の期首残高		32,131	33,444	33,444
現金および現金同等物の中間期末(期末)残高		30,832	28,148	32,131

セグメント情報 当中間期(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)

事業の種類別セグメント情報

(単位:百万円)

	コンシューマ用 機器販売事業	アミューズメント 施設運営事業	業務用機器 販売事業	その他事業	計	消去または全社	連 結
売上高および営業損益							
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	17,387	5,582	2,973	2,594	28,537	(—)	28,537
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	—	—	17	—	17	(17)	—
計	17,387	5,582	2,990	2,594	28,555	(17)	28,537
営 業 費 用	17,065	4,309	2,147	2,099	25,622	1,137	26,759
営 業 利 益	321	1,272	843	495	2,932	(1,154)	1,778

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な製品および事業内容

- (1)コンシューマ用機器販売事業……………家庭用ゲームソフトの開発、販売事業
 (2)アミューズメント施設運営事業……………アミューズメント施設の運営事業
 (3)業務用機器販売事業……………業務用ゲーム機器、IC基板等の開発、製造、販売事業
 (4)その他事業……………映像事業、ライセンス事業、その他

3. 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,156百万円であり、その主なものは、管理部門に係る費用であります。

所在地別セグメント情報

(単位:百万円)

	日 本	北 米	欧 州	その他の地域	計	消去または全社	連 結
売上高および営業損益							
売 上 高							
(1)外部顧客に対する売上高	17,500	7,522	3,386	128	28,537	(—)	28,537
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	2,594	87	—	—	2,681	(2,681)	—
計	20,095	7,609	3,386	128	31,219	(2,681)	28,537
営 業 費 用	17,772	6,955	3,454	134	28,317	(1,557)	26,759
営業利益または営業損失(△)	2,322	654	△68	△5	2,902	(1,123)	1,778

(注) 1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国または地域

- (1)北 米……………アメリカ合衆国
 (2)欧 州……………ヨーロッパ諸国
 (3)その他の地域……………アジア、その他

3. 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,156百万円であり、その主なものは、管理部門に係る費用であります。

海外売上高

(単位:百万円)

	北 米	欧 州	その他の地域	計
I 海 外 売 上 高	7,630	3,380	146	11,157
II 連 結 売 上 高				28,537
III 連結売上高に占める海外売上高の割合	26.7%	11.9%	0.5%	39.1%

(注) 1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国または地域

- (1)北 米……………アメリカ合衆国
 (2)欧 州……………ヨーロッパ諸国
 (3)その他の地域……………アジア、その他

3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高の合計額(ただし、連結会社間の内部売上高を除く)であります。

中間貸借対照表(単独)

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前中間期 (平成15年9月30日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
【資産の部】				
流動資産	【	49,172	57,881	51,162
現金および預金		17,842	15,822	20,340
受取手形		735	429	916
売掛金		9,206	9,302	8,833
有価証券		999	557	1,532
たな卸資産		2,756	4,539	2,357
ゲームソフト仕掛品		10,048	13,141	9,883
繰延税金資産		2,114	2,453	2,594
短期貸付金		9,462	8,827	7,827
その他の		1,565	2,838	2,329
貸倒引当金	△	5,558	32	△ 5,451
固定資産	【	42,807	46,951	42,524
(有形固定資産)	(3,171	3,097	3,047
建物		207	177	191
構築物		1	1	1
機械装置		0	0	0
車両運搬具		7	16	8
工具器具備品		524	660	599
アミューズメント施設機器		2,431	2,236	2,245
土地		0	0	0
建設仮勘定		—	5	—
(無形固定資産)	(751	1,034	918
(投資その他の資産)	(38,884	42,818	38,559
関係会社株式		24,670	24,454	24,454
長期貸付金		8,700	8,153	8,900
破産債権更生債権等		114	116	108
繰延税金資産		7,909	9,930	7,960
差入保証金		5,455	5,408	5,291
その他の		922	1,577	947
貸倒引当金	△	7,514	5,450	△ 7,729
投資等評価引当金	△	1,373	1,373	△ 1,373
資産合計		91,979	104,832	93,687

科目	期別	当中間期 (平成16年9月30日現在)	前中間期 (平成15年9月30日現在)	前 期 (平成16年3月31日現在)
【負債の部】				
流動負債	【	25,919	16,117	14,748
支払手形		1,027	1,300	1,008
買掛金		2,752	3,092	2,511
短期借入金		4,894	6,324	5,595
1年以内償還予定の転換社債		12,262	—	—
未払法人税等		96	17	38
賞与引当金		230	225	940
返品調整引当金		274	375	699
その他の		4,381	4,781	3,955
固定負債	【	26,150	38,548	38,550
転換社債		25,000	37,262	37,262
退職給付引当金		692	821	847
その他の		458	465	441
負債合計		52,070	54,666	53,299
【資本の部】				
資本金	【	27,581	27,581	27,581
資本剰余金	【	15,337	24,852	24,852
資本準備金		7,465	7,465	7,465
その他資本剰余金		7,871	17,386	17,386
資本金および資本準備金減少差益		7,865	17,380	17,380
自己株式処分差益		5	5	5
利益剰余金	【	627	830	△ 8,945
中間未処分利益または 当期末処理損失(△)		627	830	△ 8,945
自己株式	【△	3,635	3,097	3,099
資本合計		39,909	50,166	40,387
負債および資本合計		91,979	104,832	93,687

中間損益計算書(単独)

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前 期
		(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
売上高		19,672	16,895	45,103
売上原価		14,802	11,447	30,604
売上総利益		4,869	5,447	14,498
返品調整引当金繰入額		—	—	86
返品調整引当金戻入額		425	237	—
差引売上総利益		5,294	5,685	14,412
販売費および一般管理費		4,051	3,993	8,763
営業利益		1,243	1,691	5,649
営業外収益	(583)	(183)	(376)	
受取利息	45	138	256	
受取配当金	10	0	0	
為替差益	430	—	—	
受取賃貸料	—	—	25	
業務受託収入	6	7	14	
その他	90	36	79	
営業外費用	(464)	(388)	(672)	
支払利息	27	34	64	
社債利息	61	61	122	
為替差損	—	179	343	
貸倒引当金繰入額	307	97	97	
その他	68	17	45	
経常利益	1,363	1,485	5,353	
特別利益	(—)	(1)	(4)	
固定資産売却益	—	1	4	
特別損失	(80)	(44)	(10,888)	
固定資産売却損	—	11	12	
固定資産除却損	80	33	104	
棚卸資産処分損	—	—	3,057	
貸倒引当金繰入額	—	—	7,714	
税引前中間純利益または当期純損失(△)	1,282	1,442	△ 5,531	
法人税、住民税および事業税	174	17	554	
過年度法人税等還付額等	△ 49	—	△ 71	
法人税等調整額	530	594	2,362	
中間純利益または当期純損失(△)	627	830	△ 8,376	
中間配当額	—	—	569	
中間未処分利益または当期未処理損失(△)	627	830	△ 8,945	

株式の状況 (平成16年9月30日現在)

- 会社が発行する株式の総数 150,000,000株
- 発行済株式の総数 58,435,819株
- 株主数 26,123名
- 大株主

株主名	持株数	議決権比率
有限会社クロロード	6,772	12.08%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,317	7.70%
辻本憲三	4,070	7.26%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,012	5.37%
辻本美之	1,669	2.98%
辻本良三	1,545	2.76%
辻本春弘	1,545	2.76%
スタートリートバンクアンドトラストカンパニー505041	918	1.64%
辻本美佐子	895	1.60%
バンクオブニューヨークフォーゴールドマン サックスインターナショナルエクイティ	833	1.49%

(注) 当社は、自己株式1,964,217株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

役員状況 (平成16年9月30日現在)

代表取締役社長	辻本憲三	監査役(常勤)	山口省二
取締役(専務執行役員)	辻本春弘	監査役(常勤)	平尾一氏
取締役(専務執行役員)	小田民雄	監査役	黒田守雄
取締役	大島平治	監査役	中山好雄
取締役	北村恭二		
取締役	堀 紘一		
取締役	家近正直		

(注) 1. 取締役 北村恭二、堀 紘一および家近正直の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

2. 監査役 山口省二、黒田守雄および中山好雄の各氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

株主メモ

決算期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月中
基準日 定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日 利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

1単元の株式の数 100株
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
UFJ信託銀行株式会社
大阪支店 証券代行部
電話(通話料無料)0120-094-777

同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村証券株式会社 全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)
0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪支店証券代行部)

ホームページ
<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

公告掲載新聞 日本経済新聞

○なお、貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホーム
ページをご覧ください。

<http://www.capcom.co.jp/ir/finance/publicinfo.html>

上場証券取引所 東京・大阪証券取引所

●IRホームページをご利用ください●

IRホームページでは、財務データや株式に関
する情報などに加え、経営戦略など様々な
情報提供を行っております。



ホームページアドレス

<http://www.capcom.co.jp/ir/>